

平成 30 年度 第 3 回 富田林市市民公益活動と協働のための市民会議 議事録

実施日：平成 31 年 3 月 26 日（火）

場 所：市役所 401 会議室

時 間：15：00～16：30

出席者：市民会議委員 5 名

傍聴者：0 名

久議長：それでは、本日の次第に従いまして、「1 市民協働の進捗状況について (1) 市民公益活動支援センターの現状及び今後について」、事務局より説明をお願いします。

事務局：「1 市民協働の進捗状況について (1) 市民公益活動支援センターの現状及び今後について」説明

岡室委員：一点質問します。ネットワークステーションの数が 6 か所から 4 か所に減っているようだ。整理統合された経緯、理由をよかったら聞かせてほしい。

事務局： 大政寿司の 2 階、やまと倉庫の 2 階、ふれあいサロンさくらの 3 つについては、ほとんど利用がないということが 1 点。イトマンスイミングスクールについては富田林の北側にあるスイミングスクールで、イトマンスイミングスクールさんの方から活用していただけませんかということで、ネットワークステーションとして追加した。全体的な数としては、6 から 4 に減っている。。

久委員長：追加の質問ですが、このネットワークステーションは相手さんの希望、協力体制で使わせていただいているが、費用的には使っても使わなくても発生しないので、名前だけは残しておくという手もあったんじゃないかと思う。省略した方がいいという判断はどういう経緯があったのか。

事務局北野：3 つ減らさずに 3 つ残したまま継続ということですね。

事務局竹田：確かに久先生が言われるように実際には使う履歴がないとしても残しておく方がパンフレットでも周知できて、より充実しているという事になると思う。事務局としても全く年間の利用がなかったという事だけで判断をしてしまったという経過がある。先生の意見も参考に今後検討していきたいと思う。

久委員長：今までなかったとしても、来年、再来年あるかもしれない。更に言えば、ネットワークステーションの役割というのは、公的施設だけではなくて、民間の空きスペースをうまく活用させていただきたいという思いで作らせていただいたわけなので、企業も社会貢献していますという PR にもなる。大政寿司さんややまと倉庫さんを残すことで、企業にとっての PR 効果があると思う、大

政寿司さんなんかは、全国のモデル的な使い方だと思う。寿司屋の大広間が昼間空いていると、そこで会議とか、何かやらせていただけるというような発想は今までになかった発想なので、ご協力いただけるのであれば、又復活をしていただいて、大政寿司さんもこういうユニークな社会貢献していますよという事にもなるので、又、きんきうえぶさんと一緒に来年度の中身を考えていただけたらと思う。

緒方委員：私事で恐縮ですが、日曜日にネットワークステーションを借りようと思ってきんきうえぶに金曜日の午後7時ぐらいに電話をした。まさか開いていると思わなかったが開いていて何時までですかと聞いたら9時だそうで、すごいですねという話になったんだが、土日はきんきうえぶがやっていない。土日休めるの？という話になって、今の話だと勤めている方の利便性確保のために9時まで延長してますということで、私たちが自治会の関係で会議をやる時は、比較的土曜日、日曜日が多いので、勤めている人の利用も多いのではないのかなと、土日をオープンにするのか、平日の利用を9時までに延長するのか、選択のような感じもするが、そういう比較で判断されて決定されたのか。

事務局竹田：きんきうえぶに委託をする以前、第1期から基本的に支援センターについては、役所と同じように土曜日、日曜日、祝日、については、閉館という形できていたのではないかと思います。緒方委員がおっしゃるように、お勤めをされて方については、土曜日、日曜日の方が利用はしやすいというのはその通りです。3年前に検討は済んでいたと思うが、まず、夜の方を少しでも長くしていったのではないかと思います。確定ではないがそういう事になったのではないかというふうには今は申し上げられませんが、緒方委員の意見についても今後、貴重な意見としてまた検討の方をさせていただけたらと思う。ありがとうございます。

緒方委員：もう一点。私共、寺池台5丁目に集会所がない。常々、みんながいつでもふらりと集まれるような場所、居場所がないという事が自治会活動で苦勞している。ネットワークステーション公的連携施設があるのはたいへんありがたい話。相当個人的希望になってしまうが、例えば、関西スーパーの隣のURの建物があ、空き店舗が多くなってきている。そこに公的連携施設を入れていただくと、非常に使い勝手がいい場所になるのではないかと思います。

事務局竹田：ありがとうございます。URの空き店舗については家賃等の事なども検討していかないといけないと思うが、今後そういった形でもし利用ができるようであれば件数も増えることなので検討していくことになると思う。参考に、ネットワークステーションである金剛ショッピングモールはURの隣の施設になっているので、又ご利用いただけたらと思う。

岡室委員：相談件数が増えているということで、1か月当たり300件ということで

多いのではないかなあと。内容的にはどんなものが多いのか、聞いておられるのか。団体も増えているので立ち上げの時などいろんな相談も多くなるとは思うが、わかりやすい冊子など作られているのかお聞きしたい。

事務局北野：詳細な相談内容まではわからないが、相談の件数の内訳としては電話相談と来訪相談を足してこの人数なので、電話での相談も含めているので数が多いはなっているかなと思う。立ち上げの相談なのか、日頃の町会活動の相談なのかはデータは集約していない。

谷川委員：実際使っている側、市民団体側としての意見。相談について、私たちがお世話になったのが任意団体から NPO になる時にどういう手続きが必要かという事をきんきうえぶにさんにお世話になってこういった書類がいるとか、こういった手続きがいるなど、定款をつくるために教えていただいてとてもありがたかった。それ以外にも備品の貸し出しを時々受けていたりするが、少し古いので、最新でなくてもよいので新しいものに更新されれば使いやすい。市民活動は主に土日の活動で、土日は若い団体になればなるほど動くことが多いかなと思う。予算上難しいと思うが土日にいけたらいいといつも思う。ネットワークステーションを金剛地区にもほしいと思う。金剛地区で何かやるという時に、適当な場所がなく、ショッピングモール貸し教室はあるが小さくて人数が入らない。今は topic の方で活動させてもらっているので特に場所は困ってないが、topic ができる前は金剛地区で活動できる場所が本当になくて、少しでもあればいいなと思いながら活動していた。相談についての追加で、NPO になってからの相談も受けてもらえたらうれしい。なるまではいろいろ相談に乗ってもらったが、実際なってから法人の会計や決算をどうしたらよいかというところがわからなくて、きんきうえぶさんも細かくはわからないようで、法人になってからの支援もいただけたらうれしい。

事務局竹田：NPO の立ち上げ後の相談ですが、私共、市民協働課が NPO の担当の課ですので、こちらの方に相談してください。

久委員長：私も兵庫県川西市の市民活動センターの指定管理を受けている NPO をやっていますので、うちの場合でしたら公認会計士の方が、相談コーナーを作ってくれている。定例で月 2 回ぐらいだが、この日に来てもらったら公認会計士の方に相談受けられます、その日、都合悪い場合は事前に連絡してもらったら会計士さんに連絡して相談に乗ってもらえるようなこともやっている。行政書士さんなんか、さまざまな書類を作って申請書を書くときなどは必要なので、士業の方と連携しながら専門相談はその方々にお力を貸してもらっている。その方々に年間に何回か NPO の会計講座をやってもらっている。専門的な技能をアップするようなサポートもより充実してもらおうと先ほどの谷川さんのお話も受けられるのではないかなと思う。どうしてもきんきうえぶさんのスタッフだけ

では回らない時は外の方々との連携でうまくさばいてもらうというのも一つの手ではないかと思う。それと、金剛地区、西部に拠点がないというのは、ニュータウンそのものの問題でもある。東部の方は例えばやまと倉庫さん、大政寿司さんが典型だが、事業者さんがいればその会議室や機器などをうまく使わせてもらえる可能性があるが、どうしてもニュータウンというのは、ほとんど住宅になっているので拠点が無い。拠点が有るとすれば近隣センターとかごく一部になってしまう。まちの成り立ちそのものも課題も多い。さらに言えば、千里ニュータウンとおつきあいしていると、市民活動団体さんが自分たちの拠点を安価に求めたいと思っても近隣センターの家賃はすごく高くて市民活動団体には手が出ない。東側だと例えば、アパートや長屋の古いものが月 2~3 万出せば 1 か月借りれるスペースがある。そういう安価な賃貸物件がないというのもニュータウンの大きな問題。まちの成り立ちの違いがかなり大きく影響されているので、ニュータウン側は、先ほどから言っていますように、行政がテコ入れをして、お金も入れていかないと、そういう拠点というのが整備できないので、その辺りまた考えていただきたいと思う。

岡室委員：先ほどの質問の続きで恐縮ですが、ネットワークステーションは年間の利用数が 0 であったため廃止ということだったが、継続となった残りの 3 か所の年間の利用者数のデータなどは。

事務局北野：平成 30 年度の利用者数の実績は、ネットワークステーションの上から、ロゼサロンがダントツで、174 回。金剛ショッピングモールは次に多くて、38 回。花唐草は 0。イトマンスイミングスクール 4 回になっている。ロゼサロンがダントツで多い形。合わせて公的連携施設のデータも紹介すると、市民会館 8 回。かがりの郷 35 回。総合スポーツ公園 2 回。すばるホール 42 回。きらめき創造館 5 回。公的連携施設については、すばるホールの 42 回とかがりの郷 35 回というのが多い結果になっている。

岡室委員：花唐草は利用者 0 であったのに継続というのはどういういきさつなのか。

事務局北野：今年度 0 だが昨年とその前のデータを持ち合わせてないので。

岡室委員：やまと倉庫などは利用者がずっと少なかったのか。

事務局北野：少なかった。

久委員長：先ほどのいいましたように川西で指定管理受けていると、経営者的な感覚が強くなって来る。なぜそういう話をするかというと、5 時から 9 時まで開けてくださいというのは簡単だが 0.5 人のスタッフを雇わないといけない。一番中途半端。一人雇う方がまだいいが、4 時間勤務の人を一人雇わないといけないので、このローテーションが非常に難しい。そう考えたときに、きんきうえぶさんが次に受けられるかわからないが、きんきうえぶさんにスタッフのローテーションの回し方の事も相談してもらって、受け手側も無理ないお願いの仕方

をした方がいいかなと思う。運営側から見た時の課題になる。土日を開けると7日のローテーションどうやって回すのかという人員確保。一人ぐらい新たに雇わないと回っていかない。その方の人件費を委託料にONしていただかないといけないので、その辺は市役所と委託者側の協議が必要ではないかと思うので、ひざを突き合わせて事業の要綱づくりの時に考えていただいたらありがたいと思う。ちなみに、寝屋川の市民活動センターは受託者の特定非営利活動法人寝屋川市民活動ネット・なかまというのが、もともと団体のネットワークでできたNPOで、今スタッフとして入られている半分ぐらいの方はボランティアサークル。各団体さんからボランティアで送られてくるということなので、イノベーショナルに一日座っていただいて2000円程度でやっていただいているので、そういう事もあるということ。ただNPO側からするとちゃんと雇ってくださいということなので、できたら賃金をきっちりつけてもらうというのが本来かなと思う。

緒方委員：私、高齢者の介護医療の問題にかかる協議体。地域包括支援システムを構築するための協議体にも入っているが、その地域包括ケアシステムを構築する真ん中に高齢者がいるが、高齢者の助け合い支えあう地域社会を作らなくてはいけないというテーマがある。コミュニティというのは多世代で住民全員が参加して作られているので、そこで行政が担当の分野だけ、高齢者の分野だけ切り出すコミュニティで、高齢者の助け合い支えあいをやりましょうというようなことは難しいんじゃないかという話をしている。一方でそういうことは難しいという事で高齢者が2分の1参加すればいい。健康体操週1回やればいいのか、参加者がいればいいなど、そういう基準が変わって高齢者が地域社会に出てお互いが交流するような場を作ろう。「通いの場づくり」そういう施策もやり始めて非常に重要な施策の一つになっている。これもコミュニティづくりとして居場所づくり「通いの場づくり」といっているが、地域コミュニティを活性化させるためには、誰でもいつでも気軽に立ち寄れるような居場所づくりが必要だという話とイコールの話になっている。市民会議のテーマであると同時に高齢者の協議体でもテーマがある。対象の世代が違うというだけで、居場所づくりとか、通いの場など目標は一緒なので、是非連携して市としてそういう場づくりをしていただければありがたい。

事務局竹田：今、緒方委員がおっしゃったご提案ですが、前回2回目の市民会議の中でも高齢者の分野とは違うが、すこやかネットであったり、地域福祉課では校区交流会議というのをやっていて、それについての議題もでたと思うが、久先生の方からは、典型的な役所の縦割りだという事でご指摘もいただいている。先ほどの緒方委員がおっしゃった、高齢者の介護サービスの協議体、私も参加しているため、おっしゃっていることは、私共も認識しています。今後、やって

いることは同じだが、対象者が違うというようなところを、できるだけまとめていくというような考えが必要というように市民協働では認識している。ただ、いきなり一つにまとめるというのは簡単ではないかと思う。それについては、今後改善をしていきたいというふうに考えている。

久委員長：これも実は、市民会議の重要な案件で、地域包括支援システムはまさしく、協働の典型的なシステムなので、そこをどうやって回していくかという事は、市民協働課の直接の仕事ではないが、地域福祉のところでも市役所としての協働がどのように進むかということの評価させていただくことも我々市民会議の仕事だと思うので、また来年度以降もさまざまな分野の協働の仕組みを取り上げていただければと思う。ちなみに生駒市のあすか野というニュータウン。昭和50年代前半に作られたニュータウンで、ワークショップを始めたが、きっかけは住宅政策課の方が空き家対策を何とかしていこうというので、モデル地区として選んだが、私も生駒市を手伝っていて、みなさん空き家の問題しか考えていませんよねと、地域の方々というのは、ここの場所にどういう形で暮らし続けるかというところが重要なので、住宅政策課だけで行かないでください。という事をお願いして、ここでいう所の市民協働課、コミュニティ、協働の担当の部署の人、地域包括ケア推進室の方がチームになって、ワークショップにつきあってくださっている。こういう体制が富田林にも、もっともっと作ってほしいと思います。具体的にいうと、私も地域に入っただけのワークショップをいろんな所でお手伝いしているが、それぞれの部署がバラバラにワークショップをする。わかりやすく話すと、ワークショップの1回目はこの地域に暮らしていて、いいところは何ですか。悪いところは何か。というところから入る。地域の人たちからすると、何回同じ事言わせるんやという話になる。そういうご迷惑を地域の方にかけてはいけないということで、誰かのワークショップするのであれば、そこに関わる部署の人が一緒についていきましょう。という呼びかけをさせていただいて、生駒はその体制をとりつつある。市役所の窓口一本化、個々バラバラに地域に出向かないという習慣づけをやっていただくとありがたいと思う。生駒の地域包括ケアは全国モデルだが、その課長と話をしていると、いつも地域包括ケア推進室が表に立っていくがそうなると住民の方々も、福祉の話が中心に回ってしまうけれども今回は地域包括ケア推進室が一步引きさがる住宅政策が表に出てくれたおかげで、さまざまな話題が拾えたという事で地域包括ケア推進課の方も良かったという感想をもらっている。そういう連携を是非とも市役所内でやっていただければと思うし、それをコーディネートするのが市民協働課の役割かと思っておりますので、何か協働の場面を作ったり地域に出向く前に、市民協働課にご一報くださいというようなそんな習慣づけをしていただければコーディネートもしやすくなるのでは

ないかと思う。今、交通対策であっちこっち出向いていますよね。

事務局竹田：交通の不便地というのが富田林に何ヶ所もあって、そこには道路交通課の担当者が地域に足しげく通って色々な会議をして解消を図っている。緒方委員がお住まいの金剛地区の再生についてはまちづくり推進課。いろんな課がどんどん地域に入っている状況があるので、それをうまく束ねていければという気持ちは持っているのでは何か皆様のお力を借りながら進めていきたいと思っている。

谷川委員：このリーフレットだが、私が初めて手に取った時、公益支援センターっていう団体なんだろうと少し分かりにくかったところがあって、表紙を開いた見開きのところにネットワークステーション公的連携施設ということで、施設が並んでいるのでここに行けば窓口があって相談できるのかと思ってしまった。中を開いて見てみると個々の場所が借りられるよと書いてあったので、ここが借りられるんだという事が分かった。ここをもう少しレイアウトを変えてはどうか。ロゼサロンに行ったら相談ができるのかと私が初見で見た時思ってしまったので、市民活動というものがどういったものかというところがあって、それをさらに発展したいのであれば具体的にこういうような支援ができますよというのが中に書いてある順番が理想かなと思います。

久委員長：どうしても表紙というのは、インパクトが弱くなってしまう。この前、阿倍野区の会議をやっているときに、地域防災どうですかという話の時に、区役所は防災マップ配っているから大丈夫ですと話しされるが、防災マップ開けて見えますかという話をその会議の中でした。デザインを見せてもらうと、「阿倍野区地域防災マップ」と書いてある。そうではなくて例えばインパクトのある表紙だとすれば「あなたの家は大丈夫？」とか、訴えかけるようなタイトルの方がいいのではないかと、表紙は一番手に取ってわかりやすい、手に取りたくくなるようなインパクトが必要なので、先ほど貴重なご指摘いただきましたので、これは何のパンフレットなのか、どこに何が書いてあるのかわかりやすいように今度編集するときは工夫をお願いできたらなと思う。

緒方委員：プリントの件ですが、管理と費用の問題に関わってくるので、市民の要望にどこまで対応したらいいのかという事が必ずあると思うが、例えば、金剛の出張所に利用できるプリンターが置いてあるとか、公民館の通路のところにプリンターが置いてあったり、比較的安く利用できるようなサービスシステムができればいいなど。ただその利用頻度など、どこまで対応したらよいかという事が必ずあるが、今後施設に行っても利用できるのかと思ったら利用できませんと終わってしまったので、あれば便利だなと思う。もし検討できればと思っている。

事務局竹田：有料のコピー機は市役所の本庁には1階に2台ほどあります。A4サイズ

が1枚10円です。原紙を印刷する輪転機という機械で大量に印刷されるのであれば非常に安くつくが職員用の分しかない。支援センターの手ごろな印刷機等があればというふうにも思う。又それはご意見を検討していきたい。

久委員長：ここに写っているコピー機は市役所の費用で買われたものなのか、きんきうえぶさんの備品を使わせていただいているのか。

事務局：市役所のです。おそらくこれは費用が安くつくコピー機ではなくて輪転機だと思う。

久委員長：デジタル印刷機というものです。

先ほど谷川さんの方からビデオが古いのではないかという話があったが、最近ビデオもそんなに高くなってきたので、何か寄付を募るシステムがあってもいいのかなと思うが。個人の方がこういう備品などを寄付していただけるようなシステムも考えていただけないか。

事務局：検討させていただきます。

久委員長：他はよろしいでしょうか。

それではさまざまご意見賜りましたので又参考にさせていただいて、来年度以降につなげていただけたらと思います。続きましてひろとんについて事務局より説明お願いいたします。

事務局：「1 市民協働の進捗状況について (2) ひろとん（市民活動わくわく広場 in とんだばやし）について」説明

久委員長：何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

谷委員：これを聞いてしまっているのかわからないが、アンケートを単純に集計されていると思うが、これから次年度どうしようという話はされているのか。

事務局竹田：ひろとんですが、通算14回になってまして、最初は市民会館であるとか、小学校の体育館で開催していてほとんど来場者がいないという状況があった。先ほども説明がありましたが、エコールロゼ商業施設の中でさせていただいて6回目。1回目からたくさんの方が足を止めていただいて、色んなPRを熱心に聞いていただけるという事から、非常に好評。エコールロゼさん自身についてもいろんな問題はあるにせよ売上の方も多少上がるというようなこともあると聞いている。今後もエコールロゼをお借りして引き続き継続をしていきたいと思っている。参加したい団体さんも少しずつ増えていると聞いている。ブースの数が限られているので、毎回出店できるかどうかはわからないが、今後もこちらの場所でやりたいと市民協働課としても考えているし、支援センターの方も考えていただいていると思う。

谷委員：個人の話になってしまうが私、居合をやっている今年ださせてもらった。今までこういうPRできる場所が少ないということもあって、してもらえてよ



かったのかなと。アンケート見ていると書いてあるのは空手ですが、関係する人も見に来てくれたのかなと思うので、非常に良かったのではないかとと思う。せっかくそういうので、新しいものが出てきたら新しい方が見に来てくださるというのもあるかなと思うので、是非アンケートもとっていただいているのでこれをみながら新しい取り組みも広げていただけたらとも思います。

久委員長：アンケートの自由回答の中でいつもよりも寂しいという意見が。先ほど事務局の話によると、どんどん増えているような印象で伺ったが、このギャップはどこにあるのか？

事務局竹田：あくまでも私の感覚だが、午前中は非常に来場者が多いが、お昼と共になぜかわからないがちょっと減ってくる。それともう一点はステージについては、やっているパフォーマンスによってはお客さんが少ないときもある。FC 大阪のプロの選手が来てくれた時は時間帯が悪かったようで、子どもたちにおいでと声をかけたが、あまりいなかった状況もあって、そういったところを見られてちょっと寂しいという感想をもたれたのかもしれない。

久委員長：4年ほど前から尼崎で8月の第1土、日曜日に高校を借りてみんなのサマーセミナーをやっていて、2日間で350ぐらいの講座が市民講座としてでている。1年目2年目はせっかく講座をやっていただいているのに、聴講者が0だと、かわいそうという事で聴講ボランティアというのを作っていて、誰もいない所はその人が入っていきこうという話をしていた。3年目4年目はそれをやめようという話になった。なぜかという、自分たちが聴講者を引き付けられないというのは、自分たちの限界でもあるわけだからそれを経験してもらいましょうというのも、これからステップアップするのに重要。0なら0で0にしてしましましょうという話になった。そういう意味では時間帯も悪いとは思いますが、それぞれのお客さんにいかに魅力を伝えられるかというところがここでチャレンジできるわけなので、少なければ少ないで、それは主催者の責任ではなくて、自分たちの魅力の問題かもしれないということで反省していただくと次のステップにいけると思うので、あまり主催者や実行委員会がやらない方がいいのかなと思います。

こういうのがあったらよかったとかあればなとかいう意見があるが、それを書いた方にじゃあ、あなたやってくださいやあなたの友だちを連れてきてくださいという方が実行委員会には楽できる。みんなで盛り上げていけるような体制を続けていただければうれしいと思います。

他いかがでしょうか。

緒方委員：展示される団体の中で、例えば地縁団体、自治会系という方はいらっしゃいましたか？

事務局竹田：地縁団体単独で出されているところはない。各町会の集まりである市の町

総代会はブースでパネル展示をさせてもらって、町総代会の活動はこういうことをやっていますという紹介のパネルは立てているという事です。左上の写真の真ん中の所が町総代会の紹介をしているパネルです。単独の地縁団体はないです。

久委員長：彼方上は。

事務局竹田：彼方上地区は緒方委員と同じように元気なまちづくりモデル事業を受けておられる団体ですが、彼方上地区の7つの町会が集まって運営されてまして、ここは地縁団体ではないがそれに近い団体がブースを出されて、毎年カレンダーを作っておられるんですが、地域の特色を活かしたカレンダーの配布又、協力金をそこでいただいたりというのは一部ある。

緒方委員：私の所も地域づくりに関わっておるものですから、そういう視点で見ると、私自身も高齢者になって高齢者が地域で元気に住み続けられる街にするためには、どうしたらいいかという共通したテーマがあるわけだが、そのためにはやはり地域におけるつながりづくり、交流というか地域再生の基本というのは地域の自治会が主体になりながら地域のつながりづくりをすることによって、安心安全な地域社会ができるのではないか。そこに社協とか民生とかいろんな方が外から或いは地域包括の方が外から来られても、一人一人に対して目が届くわけではなくてお互い何でも話ができ相談できる関係でもない。それができるのはやはり近隣関係の中でしかできない。そういう事ばかりやる自治会では成り立っていかないわけで、お互いテーマを持った活動をしながら地域を元気にしていく方法を今探っている。その一つとして男の居場所で楽農クラブを作ったり、或いは地域の茶の場づくりという事で、集会所がないのでそういう活動を通してお互いのつながり交流を深めていこう。それが災害時の安否確認のシステム作りにつながっていけばということやってきている。そういう意味で地縁団体の活動って改めて大事なと認識しながらやっている。こういうテーマ型、講演型の組織というのは現役世代の元気な世代が主に関わっているわけで、例えばNPOで一番大きな組織と思うが、くすのき塾が活動されているがあそこ関係者に聞くと、第一世代がそろそろリタイヤして第二世代にかかってきているがなかなか人が増えないという話をされている。こういうところで活躍して公益的な関わりでみなさんがつながっていくといいがそういう人たちがリタイヤして地元に戻った時のつながりが無い。そうすると又一からやらなければいけないので、地縁型とテーマ型が融合した地域の在り方みたいなものがないのかというふうにも思う。そういう意味で地縁型の団体、組織がどの程度出展されたのかと質問した。

久委員長：私に関わっている泉大津は、市民活動センターが地縁団体にも出店を呼び掛けてくださっているという経緯もあって、まだ多くはないが、その地域の自治

会がパネルを出している。私も市役所に寄るついでに寄らせてもらうが、この前寄った時に参加者の声が聞こえてきたので、これうちの地域ではないかという声が出てきた。テーマ型の方々がパネルを見ている時にうちの地域ではないかという事が発見された。うちの地域も頑張っているなという声があがっていた。更に違う自治会の方がショッピングのついでに寄られてここの自治会面白いなという声もあがっている。そういう意味では積極的に出展していただく動機付けを実行委員さんもやっていただければと思います。何の効果があるんだという声が出てくるが、地域外の人たちがいてるところに出展しても何の意味もないのではないかと、ポスター作るのにもしんどい思いしなけれがいけないので。先ほど言ったように、今まで自治会活動に関わったことのない方へショッピングついでにのぞいていただいたら届いているという事。自治会の学びあいになるという事。そういう意味での交流会的な位置付けで説明してもらおうと、色々とのってくださるのではないかと考えている。彼方上の方々もこの後の報告会でも言われると思うが、ひろとんを非常に楽しみにしておられる。地域外の声が聴けるという事でそれが励みになっている。地域の中ではなかなか聞こえてこないような称賛の声もいただいている。そういう事にも役に立っているので、是非地縁団体も食指をのばしてもらってもいいと思いますので。

事務局竹田：一点補足になります。先ほど久先生がおっしゃっていただいた彼方上地区がブースをだしておられて、もう一点、元気なまちづくり事業を受けている喜志西小学校区もパネル展示でしたが、自分の所の団体の活動紹介をしていた。緒方委員の所の団体も来年度、地縁団体とは違うがPRにもなるかと思うので、申し込んでいただけたらと思います。

谷川委員：ひろとんにも参加している側でもあり、お手伝いしている側でもありというところでの意見ですが、ステージ発表の方で主に我々関わっているが、SDGsのところ展示のブースの方にはSDGsを表示する広告があったがステージの団体はなくてただ発表しただけで終わってしまったので、私たち一応公益なのでSDGsに関わる活動もしているので、ステージの団体にもこういった活動しているというようなものがプログラムにものっていてもいいかと思った。アンケートの中の3ページの所のスタンプラリーがとてもいいと思いますというのでスタンプを集めてパンフレットを渡してしまうというところが私も感じていて、スタンプを押したらパンフレットを返してしまうので、来場者の方がどの団体が参加していたとか、どこにどの展示があったとか全く持ち帰るものがないままその日が終わってしまうので、市民の方がせっかく興味を持ってスタンプラリーに参加してくれたのにできればこの活動に興味があると思ってそこに連絡をとろうとか調べてHPのアドレスなどが載っていたらいいと思うが、各団体に連絡をとれるアクセスを取れるような手段が市民の方に持ってかえ

ってもらえるようなものがあればいいなと思います。

久委員長：これも私が他市でお手伝いする中でアイデアがあったと思うのは、ポスターの所に付箋のようなものを貼ってある。それを気に入った方が持って帰るという仕組みで、連絡先が書いてあってそれだけでいけるのではないかというふうに思う。それを又実行委員会が用意するのは大変なので、自分で作ってきてくださいとお願いしたらどうかと思う。

事務局竹田：また来年のひろとんのパンフレット久先生のアイデアも参考に活かしていきたいと思う。ありがとうございます。

久委員長：実行委員会の方も市役所の方も、他市を見に行くとまた違うアイデアがそこで展開させているので、他市の交流会にも参加していただくと勉強になるのかなと思う。

他いかがでしょうか。

継続して頑張ってくださいっているので又来年もやっていただければと思う。続きまして、「2 富田林市げんきなまちづくりモデル事業について」、事務局より説明をお願いします。

事務局：「2 富田林市げんきなまちづくりモデル事業について」、事務局より説明

緒方委員：もともと楽農クラブをはじめたのは戸建て住宅地域で非常に高齢化が進んでいて、住宅地が建って50年ですので当初に入居した人が70、80歳になって高齢化して、お互いのつながりが薄い。地域コミュニティが衰退している代表例みたいな住宅地。コミュニティの再生をどうするかというテーマの一つとして、自治会が役割を果たすのに重要とお話しましたが、自治会が1年交代で役員が変わっていくということで、全国一緒だが、形骸化してなり手がなくて入会率も下がってきているような形で、形骸化している自治会に対してやはりこれからの社会にとって自治会は大切だということで、自治会ボランティアクラブというのを作った。本来ある自治会の活動を志ある人がボランティアでサポートしていくというクラブ。そのクラブのテーマの一つが楽農クラブ。もう一つみんなのまちプロジェクトというのがある。この楽農クラブは、普通、市民農園は一区画一区画を個々に農業をするが、ここは協働で作業するので、お互い知らない人達が非常に仲良くなった。男の居場所づくりのひとつで、何かテーマがないとただ集まっておしゃべりするというのはほとんどない。こういう農作業をやることによって集まってくる。特に高齢の会員が熱心にされている。一人では生活が難しい男性高齢者が奥さんがここで一緒に是非参加したいということで来られている。その他ここで出来た農作物をサロンや軽トラマルシェなどに提供してそこで面白いことをやっているねとか、無農薬で作物を作っているのが非常に美味しいねという評価をいただいたりしながら地域のつながりが広がっていったとい

うような効果は実際に得たなと思っている。

久委員長：ご質問、ご意見ございますでしょうか。

谷委員：継続でやられているところがある反面、単年で終わられているところがあると思うが、終わられているところは今も活動されている？

事務局竹田：第1期で申し込まれた3団体は、彼方上町会は今現在もすごく活動的に運営されている。2番3番については、こちらでもどのような状況になっているのかわからない。活動されていない可能性もある。第2期については、2番の藤沢台4~7丁目連携ネット、西尾委員の所ですが、こちらについては現在も活動されて今までは週に1回ぐらいの青パトの運営だったのが、今後は毎日月曜日から金曜日まで青パトを走らせるというようなことを聞いている。これに関しては総務課の防犯担当の方から補助金が出るのでそれを利用されると聞いている。3番4番については今期も引き続きやっておられる。5番のオール東板持については、活動は休止状態ではないかと思う。

久委員長：谷委員の質問に捕捉させていただくと、20万30万大きいものいただいているのだから、できたら続けていただきたいなと思う。他いかがでしょうか。先ほどもご案内しましたが5時からそれぞれの団体さんの方から報告がありますので、その折にもいろいろ情報交換できると思いますのでよろしく願います。